

令和5年度 第4回大津市総合教育会議

- 1 開催日時 令和5年11月22日(水)
開会：11時00分 閉会：11時40分
- 2 開催場所 新館2階 災害対策本部室
- 3 議題
(1) 第4期大津市教育振興基本計画及び大津市教育大綱策定に向けた基本的な考え方
及び策定スケジュールについて
- 4 出席委員
島崎教育長、壽委員、田村委員、周防委員、大西委員、佐藤市長
- 5 会議に出席した事務局職員
教育部長、富永教育部次長、小島教育部次長、教育総務課長、学校教育課長、
児童生徒支援課長、生涯学習課長、教職員室長、教育支援センター所長、
教育総務課長補佐、教育総務課副参事
政策調整部次長、企画調整課長、子ども・若者政策課長、幼保支援課指導監、
企画調整課主査
- 6 議事の経過 別紙のとおり

1. 開会

2. 議題

(1) 第4期大津市教育振興基本計画及び大津市教育大綱策定に向けた基本的な考え方及び策定スケジュールについて

資料1「第4期大津市教育振興基本計画及び大津市教育大綱策定に向けた基本的な考え方及び策定スケジュールについて」

説明

〔質疑応答〕

○市長 第3期までの計画策定については、皆様から様々なご意見をいただきながらも、市長部局や教育委員会が主体となって策定した計画を、学校現場に示すという形でありました。次期計画については、学校現場の方にも自分たちの計画であるという思いを持っていただくために、行政と学校現場が一緒に作るという取り組みが求められているものと思っています。また、子どもたちの思いというのもしっかりと汲み取った上で計画に反映させなければいけないと思います。子どもの思いを1つにまとめるということは難しいと思いますが、そういった点をしっかりと意識しながら、次期計画の策定を進めていかなければいけませんので、単に第3期から第4期への更新や、国の計画の反映というようなプロセスではなく、原点に立ち返り、大津の教育にとって大切なものは何なのかというところをしっかりと考え、進めていきたいと考えております。本日はそのことを踏まえ、委員の皆様から大津の教育にとって大切にすべきものは何か、また、計画策定に向けた進め方について、忌憚ないご意見を頂戴できればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○田村委員 市長のお考えをお聞かせいただき、非常にうれしく思いました。4ページの第3期教育振興基本計画の内容を見ますと、非常に学校教育に偏っているという印象を受けており、家庭教育や社会教育についても、第4期の基本計画を作成していくうえで必要であるだろうと思っております。義務教育段階であっても、生涯、大津で生活をし、大津を支えていく人材を育成するために、大津というのはどのような魅力があり、どのようなまちづくりをしていくのかを検討することは非常に重要だと思っております。また、子どもの意見聴取についても非常に良いことだと思っており、子ども基本法においても、子どもの意見の表明権というのは明示されており、次期計画策定に向けた進め方については、子どもに限らず、地域に住まれている人たち、特に若者の意見をどれだけ吸い上げることができるかが必要だと考えております。大津はこれからどのような発展をしていくのかという視点を大切にしながらプロジェクト会議を進めていただければと思います。

○壽委員 田村委員からもお話がありましたとおり、学校教育に限らず、家庭教育や社会教育も大切だと言うことを前提にしたうえで、その中でも、学校という場を大切にしていきたいという思いがあります。第3期では、子どもが安心して通える学校づくりという話が出ておりましたが、子どもに限らず、先生や保護者なども安心して通える安全な学校づくりとい

うのを忘れずに進めていくことが大切だと思います。学校という場所は、地域を繋いでいく役割を担っていることから、今後もこの学校という機能を大事にしていきたいと考えております。また、策定に向けた進め方の中で、子どもの意見を聞くという話がありましたが、是非その方向で進めていただきたいと思います。子どもの話を聞くとなると、おそらく生徒会の子どもたちからのお話を聞くということになると思いますが、それだけではなく、子どもが発する素朴な言葉というのをどれだけ拾い上げられるかが重要であると思っておりますので、その意見の聞き方の手法についても、今後、議論を深めていきたいと考えています。

○大西委員 子どもの意見の聞き取り方に関してですが、従来からも子どもの意見を聞き取りながら教育が行われてきたと思いますが、その意見を上手く活用することが出来ていなかったのではと考えております。例えば、数人の子どもから聞き取った意見というのは、質的なデータになるかと思えます。そういった数名の意見を踏まえて今度は全体に対して量的なデータで聞き取りをすることで多くの子どもたちの意見を反映したデータが集まってくると思います。そのデータをもとに施策を決めていくことになると思いますが、今後については、データの活用方法や、統計解析についての仕組みを整備する必要があると思います。聞き取って終わりではなく、子どもの意見について、その特性などを踏まえながら教職員の方々や教育委員とともに議論することも含めてスケジュールを検討いただければと思います。

○周防委員 改めて第3期大津市教育振興基本計画を拝見させていただくと、国の計画に記載されている言葉がよく使われている印象を受けました。市長が申されているように計画を学校現場に示すということであれば、誰が見ても分かりやすい言葉で、地域から意識される多様な内容であることを第4期計画では検討していただければと思っています。例えば、大津市では他自治体に比べコミュニティ・スクールの設置率が高く、そういった観点から、今後はどのようにそれらを生かしていけるかといったような、具体的内容などが次期計画の中に反映されることが大切であると考えています。大津市の強みと課題をしっかりと精査しながら策定を進めていければと思います。また、学校だけではなく、地域や家庭も含めながら、計画策定を進めていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

○島崎教育長 先ほど壽委員が述べられたように、大津市においては、学校という場所が地域にとって重要な位置付けですので、地域とともに進めて行くという事であれば、計画の中にもしっかりと反映していくべきであると考えております。また、ウェルビーイングという言葉ですが、私は学校発信ではなく、家庭から築き上げられてきたものが、学校という発達段階を通してさらに大きく育っていくものだと思いますので、自己肯定感や自尊感情などを高めるという観点から、学校教育の担う役割が具体的に明記できればと思います。市長が述べられた、ともに計画をつくっていくということですが、平成20年ごろまでは、大津市教育委員会は毎年、教育の指針というのを県同様に作っていました。当時の教育委員会のみならず、学校現場の声を聞きながら作成し、3つの土台に3つの施策に具体的な7つの努力事

項があり、337拍子ということで、手づくりのものであったことから学校現場に定着した覚えがあります。そのことから、若手教員やミドルリーダーといったような教員が、「こんな学校にしたい」や「こんな子どもに育てたい」といった意見は、非常に大事な視点であると思っております。実行には様々なハードルがあると思いますが、楽しいステップでもありと感ずますし、それが教員の魅力を発信することにも繋がるのではないかと感じております。次期計画は天津市ならではの平易な言葉で、多くの方に届くような計画にしていきたいと思っております。

○田村委員 文科省の第4期教育振興基本計画の基本方針②の2点目のなかに多様性、公平・公正、包摂性と記載がありますが、これを具体的に子どもたちが通う学校教育の中で取り込もうとすると、多くの問題が浮き彫りになります。そのことを1つ1つの課題として捉え、大津の教育をどう進めるかということ議論しなくてはなりません。多くの課題を踏まえた上で、それを具現化するにはどのような言葉を使い、どのような方針を作り上げていくのかというところに力を入れる必要があります。そのなかで、子どもに限らず、大津でお住まいの方々の教育に対する思いを汲み取ることは大切であると思っておりますので、そのような視点でご検討をしていただければと思います。

○市長 ありがとうございます。皆様からは様々なキーワードをいただいたと思っております。田村委員からは義務教育の段階に限定することなく生涯の学びという視点をいただきました。壽委員からは地域をつなぐ場としての学校を大切にしたいということでありました。また、大西委員からは子どもの声をしっかりと定量的に取りまとめていく手法について検討すべきということでした。周防委員からは、コミュニティ・スクールも含めて、地域との関わりの中での大津らしさを打ち出していくことについて、教育長からは、学校現場との連携についてご示唆いただきました。今回のご意見を踏まえ、文部科学省の示した計画そのものをリライトすることなく、しっかりと大津の実情に合わせて落とし込んだ計画を作りたいと考えます。私個人の考えとしても、やはり学校というところが子どもたちにとって、どのようにより良い場所になるのかを大切にしたいと思っております。多様な担い手との連携や、誰1人取り残すことのないように場所をつくるといった視点も大切であります。大多数の子どもたちが過ごしている学校という場所について、今後検討していけたらと思っております。そのうえで、学校がハブやプラットフォームとなり、さらに学校としての役割機能が広がっていくものと思っておりますので、今後についても、様々な観点からご意見をいただきながら、進めてまいりたいと思っております。引き続きご協力賜りますようお願いいたします。それでは、これをもって全ての議事を終わらせていただきます。